

## 委員長コメント

(2007 (平成 19) 年エイズ発生動向の概要について)

### 1 HIV感染者・AIDS患者報告数

#### 1) HIV感染者の報告数

2007 年は、日本国籍・外国国籍合わせて 1,082 件と、過去最高となった(これまでの最高は前年の 952 件)[図 1 参照]。

日本国籍男性の増加が引き続き顕著で、報告数は 931 件と、過去最高となった([図 3 参照]、HIV感染者報告全体(1,082 件)の約 86%)。

#### 2) AIDS患者の報告数

日本国籍・外国国籍合わせて 418 件と、過去最高となった(これまでの最高は、前年の 406 件)[図 1 参照]。

AIDS患者についても、日本国籍男性の増加が認められ、本年の報告数は 343 件と過去最高となった(これまでの最高は前年の 335 件)[図 9 参照]。

#### 3) 結果

HIV感染者とAIDS患者の報告は、それぞれ過去最高となった。HIV感染者・AIDS患者合わせて1,500件であり、平均すると「1日あたり4.1人」が新たに報告された。

### 2 感染経路

#### 1) HIV感染者

同性間の性的接触が 729 件(全 HIV感染者報告数の約 67%)、異性間の性的接触が 221 件(男性 171 件、女性 50 件。全 HIV感染者報告数の約 20%)であった。これらの性的接触によるものを合わせた 950 件のうち男性 898 件、女性 52 件となり、男性の割合は約 95%であった。

#### 2) AIDS患者

性的接触によるものが合わせて 311 件(男性 280 件、女性 31 件。全 AIDS患者報告数の約 74%)で、同性間の性的接触が 157 件、異性間の性的接触が 154 件(全 AIDS患者報告数の約 37%)であった。

#### 3) 日本国籍男性

HIV感染者・AIDS患者のいずれにおいても、同性間の性的接触が 1999 (平成 11) 年頃から急増しており、特に HIV感染者については最高の報告数(HIV感染者 690 件、AIDS患者 152 件)となった。

#### 4) 日本国籍女性

H I V感染者・A I D S患者のいずれにおいても、異性間性的接触による日本国籍女性の報告は、低い数で推移している。年齢別に男女比を見ると、低年齢層で女性の比率が高い傾向にある。〔図 6 参照〕。

### 3 外国国籍H I V感染者・A I D S患者

H I V感染者は 113 件(前年 116 件)、A I D S患者は 53 件(前年 51 件)となっており、合計件数についても、感染経路については、過去 10 年間で同性間の性的接触が増えている。〔図 12 参照〕。

### 4 推定される感染地域及び報告地

推定される感染地域は、H I V感染者の約 88%(949 件)、A I D S患者の約 80%(336 件)が国内感染であった。

報告地は、東京、その他の関東・甲信越ブロックが依然多く、H I V感染者の約 54 % (584 件)、A I D S患者の約 47% (195 件)を占めている。また、年次推移を見ると、H I V感染者については、全国的に増加しているが、A I D S患者については、東京、その他の関東・甲信越地方ではやや減少傾向を示しているものの、その他の地域では増加傾向が見られる。〔図 13 参照〕。

### 5 まとめ

2007(平成 19)年におけるH I V感染者とA I D S患者の報告数は、それぞれ過去最高となった。

感染経路別に見ると、同性間性的接触がH I V感染者の 67%、A I D S患者の 38%、異性間性的接触がH I V感染者の 20%、A I D S患者の 37%であった。

H I V感染は、これまでの東京を中心とする関東ブロックに加え、近畿、東海及びその他の大都市においても報告数の増加が見られている。

したがって、同性愛者等の個別施策層を中心として、地域の実情に応じ、教育関係者、医療関係者、企業、N G O等との連携のもと積極的な予防施策が必要であり、各地域での対策の展開が望まれる。

なお、2007(平成 19)年エイズ発生動向の詳細については、6月下旬に年報を公表予定である。